

沖縄の復興を支えた 企業の誇りを未来へつなぐ

株式会社 りゅうせき 代表取締役社長

金城 克也 氏



戦後、沖縄県唯一の石油販売会社として誕生し、2010（平成22）年、創業60周年を迎えた『りゅうせき』。復興する沖縄のライフラインを担い、発展を続けてきた企業の6代目社長が金城克也氏だ。かりゆしウェアに身を包み、日に焼けた笑顔が印象的な経営トップに、企業の、そして沖縄の未来へのチャレンジを熱く語っていただいた。

きんじょうかつや / 1956年生まれ。沖縄県出身。沖縄国際大学商経学部商学科卒業。1975年東洋石油精製株式会社入社。1995年株式会社りゅうせき入社。2004年同社常務取締役などの役職を経て2006年より現職。沖縄経済同友会・常任幹事、沖縄県石油商業組合・理事長などの要職も兼務。座右の銘は『誠心誠意』。

株式会社りゅうせき

●所在地：〒901-2123
沖縄県浦添市西洲 2-2-3
●TEL：098-875-5000
<http://www.ryuseki.co.jp/>
●創立：1950年
●資本金：10億5千万円

●年商：465億円

●従業員数：167名

●関連会社：東亜運輸株式会社 株式会社オートプラザ琉石
株式会社りゅうせきビジネスサービス りゅうせき商事株
式会社 株式会社りゅうせき建設 株式会社りゅうせき低
温流通 株式会社りゅうせきエネルギー 株式会社りゅう
せきロジコム 株式会社りゅうせきエネプロ

戦後沖縄の復興という 県民の熱い思いに支えられて

株式会社りゅうせきの社名は、当社が1950（昭和25）年に琉球石油株式会社として創立されたことに起因しています。戦争が終結して5年目、甚大な被害を受け、アメリカ統治下の沖縄で、地元の実業家であった稲嶺一郎が、沖縄復興のためにはエネルギーの安定供給が不可欠であるという強い思いで、石油供給会社を創業したのが当社の成り立ちです。

当時の沖縄の状況をうかがい知れるエピソードのひとつに、その資本金が4千万円だったことが挙げられます。B円とは戦後沖縄で流通したアメリカ軍発行の軍票で、当時のレートでは1B円は3円。ですから日本円にして1億2千万円ということになります。この莫大な資本金は、創業時にいた23名の社員の方々や県内を駆けまわり、沖縄の経済界、企業、あるいは個人など、幅広い人々の支援によって集められたもので、株主の数は2400名あまりにものぼりました。そのなかには那覇市役所、本部町役場などの自治体も名を連ね、まさに官民一体となって、明日の沖縄のために誕生したのが当社です。

そして2010（平成22）年、創立60周年を迎えました。その歴史は決して平坦なものではありませんでしたが、創業者である稲嶺一郎が掲げた「社業の公共性」を第一にする姿勢を企業として持ち続けたのは、こうした背景があればこそなのです。

当社は県内唯一の石油販売会社としてスタートを切り、民間企業ながらも石油・ガスの供給という公共性の高い事業に取り組んできました。特に沖縄は多くの島々を所有し、有人島だけでも47を数えます。こうした離島の人々の生活を支えていくため、創業後まもなく石垣島、宮古島、久米島に油槽所を設置し、さらに安定的に石油の輸送を行うためにタンカー船を所有して海上輸送部門を充実させました。1964（昭和39）年には全島プール制を導入、輸送コストがかか

る離島でも、本島と同価格で石油が購入できる制度を整えるなど、沖縄の人々の暮らしと産業に貢献してまいりました。

エネルギー事業を核に 新規事業への参入で成長

しかしそのすべてが順調に進んだわけではありません。県内に一社独占で行われていた石油・ガス販売が、1972（昭和47）年の本土復帰で本土からの大手資本の参入を余儀なくされ、自由競争の時代へと突入し、大きな打撃を受けたこともありました。さらに70年代の第一次、第二次石油ショックといった経済、石油業界の混乱、1990年代以降の石油業界の自由化と、いくつもの時代の大きなうねりの中に巻き込まれ、何度も厳しい局面にさらされてまいりました。

こうした時代環境の中でわが社が生き延びられましたのは、エネルギー部門の事業に安住することなく、常に新しいチャレンジを続けてきたからです。創成期に続く60年代から、沖縄の産業発展、地域貢献に寄与するとの理念のもと、農業振興を目的とする「財団法人琉石産業研究所」や、各農家で飼育する家内養豚から企業養豚への転換を促進するため「アジア畜産」などを設立してきたのがその礎です。

そして石油の販売が全国で自由化、規制緩和がいち早く導入されるなか、エネルギーの事業だけでは企業の継続発展はできないという判断から、80年代より経営の多角化への道を推進。70年代よりカード社会の到来を予測しPOS端末機を利用した給油カードシステムを導入するなど、ICTを経営の戦力として活用する方針を打ち出し、1984（昭和59）年にはOA事業部を設置。パソコン、ワープロなどのOA機器類の販売を開始しました。さらに携帯電話、ホテル事業、保険、冷凍倉庫などの事業を展開し、沖縄経済の発展に寄与してまいりました。

当社では「地域と調和」「人間を信頼」「未来へ前進」の3つを企業精神として掲げています。より高い価値を求めて事業を推進していくことこそが、沖縄の未来のために誕生した当社の役割であると考えています。

石油業界一筋の仕事人生 今は1年1年に勝負をかけて

私は高校卒業後、沖縄県中部にありました東洋石油精製株式会社に入社し、同時に地元の大学に通い、商学部で学びました。その後、会社が日本石油精製株式会社に合併されるなどの変遷もありましたが、今日に至るまで石油業界一筋に歩んでまいりました。

若かりし日々には、石油精製工場の現場で汗を流したこともあります。その後沖縄、九州地区での営業などの業務を経て、縁あって1995（平成7）年より当社の社員となりました。沖縄に生まれ育った私にとって、当社は戦後から今日に至るまで、沖縄の経済を支えてきた企業であるという思いも強く、こうした会社で働くことは、地域のために貢献していく業務に携われることであると、大きな喜びを感じたことを今でも記憶に留めております。

3代目社長の稲嶺恵一（前沖縄県知事）から続いている社長の定年制（60歳）があります。私は2006（平成18）年に6代目の社長として就任しました。現在私は54歳ですので、あと6年あると考えるのは間違いで、実は当社の取締役の任期は1年。1年ごとに社長としての評価を問われます。1年1年が背水の陣、大きく時代が変化していく中で、企業としてどうあるべきかを摸索しながら、積極的な事業展開で、常に結果を出す経営を心がけ、チャレンジを続けています。

現在、コア事業である石油関連事業は、グループ全体の売り上げの80パーセントを占めています。しかし世界的な環境問題への意識の高まり、国内の少子化現象を鑑みますと、将来的に石油需要の減少が見込まれます。企業の継続のためには、成長を続けていくための取り組みが必要です。今後も新規事業への参入も視野に、事業構造の転換を図っていくというのが、大きなひとつの課題です。

人材育成は企業成長のカギ 若手社員とも日々交流を实践

そして私自身、特に積極的に関わりながら取り組んでいきたいと思っているのが、人を育てる事です。人材育成は企業成長の大きな鍵です。人間力、仕事力の備わった人づくり。社員には人間力、すなわち強い精神力を持って挑戦する心を養い、周囲から必要とされ、信頼される人となれと語り、こうした人づくりをめざしています。

そのためにはまず社員との垣根を低くしようと、社長に就任してから、お客様のものと営業担当者と2人でアポなし訪問をするという活動をはじめました。お客様を訪問する際、営業車の中で若い社員と2人、ざっくばらんに話ができるのもいいですし、またお客様と膝を交え、肩の凝らない会話の中で、本音の話に耳を傾けることもできます。

また2009（平成21）年1月からは社内活動として始業前の朝の10分間、自分たちの仕事場の清掃をしています。もちろん私も参加し、社内のあちらこちらを回っては、棚などを拭きながら社員たちと会話を交わします。たわいない会話ではありますが、こうしたことから社

員とのコミュニケーションをとって、誰でもが物申せる環境を作る。そうした雰囲気作りも徐々に浸透していることを実感しています。

同時に経営方針や決算説明会も、社員全員の前で行い、経営の透明化を推進。月2回行われる管理職会議では、管理職から私に質問をすることを義務づけています。活気ある意見交換がより深い議論となり、社員が一丸となって、企業のよりよい未来に向けての道を見出していければと考えています。

先にも申しましたように、当社は2010（平成22）年に60周年を迎えることができました。今後は既存事業の経営強化はもとより、CSR（企業の社会的責任）活動のさらなる推進、そして新規事業の創出などが大きな課題です。

2008（平成20）年のリーマンショック以降、国内需要の冷え込みが続く厳しい環境ではありますが、沖縄の産業振興をめざして創業された我が社だからこそ、積極果敢に企業経営に取り組み、元気ある沖縄を支えていきたいと思えます。

沖縄の魅力をビジネスチャンスに さらなる挑戦を

地理的条件のもとでアジアを見渡したとき、沖縄という位置づけはキーとなる存在であると私は考えています。那覇空港は24時間空港として2009（平成21）年10月から全日空国際貨物基地となり、韓国、ソウル、上海、香港、バンコクなどへのネットワークを強化しています。この地理的に有利な条件を活かし、特色ある農業、農産物などに付加価値をつけて、大陸をビジネスのターゲットにしながらの事業展開も視野に入れており、まだまだ挑戦のチャンスは豊富にあると考えています。

またご存知のように沖縄は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、観光立県としての魅力も満載です。

当社でもホテル事業として2008（平成20）年9月、那覇市の国際通りに「ホテル ロコア ナハ」をオープンいたしました。琉球王朝をモチーフにしたロビー、ゆったりとしたくつろぎ感のあふれる客室など、上質な沖縄の休日を過ごすにふさわしい空間を提供しております。

ぜひ温暖な沖縄で、休日をお過ごしになられてはいかがでしょうか。



国際通りに位置する「ホテル ロコア ナハ」の正面ロビーにて

トップは語る こぼれ話はウェブサイトへ ▶

eふあみり もあわせてご覧ください!

eふあみり

<http://jp.fujitsu.com/family/honbu/family/>